

日常生活援助学 (旧カリ用)

[講義] 第2学年 後期 必修 1単位

《担当者名》○朝日まどか asahi-m@hoku-iryo-u.ac.jp 浅野葉子 菊地啓介

【概要】

対象者の生活を作業療法士として支援するために、日常生活活動や生活関連活動の概念また評価や支援方法を理解できるようになる。さらに本人の能力だけではなく、本人を取り巻く環境等様々な要因の影響について考察できるようになる。

【学修目標】

<一般目標>

1. 作業療法における日常生活活動の役割を遂行するために、日常生活活動の概念について理解することができる。
2. 日常生活活動の評価を適切に実施できるようになるために、関連する一連の手順について理解することができる。
3. 日常生活活動・生活関連活動を支援するために、その支援計画立案の構造について理解することができる。
4. 日常生活活動の評価と治療の計画立案および実施のために、身体機能障害の例をもとに理解することができる。
5. 日常生活活動・生活関連活動の支援方法である福祉用具、住環境を適切に選択し、駆使できるようになるために、それらの内容を理解することができる。

<行動目標>

1. ICFの構成要素と日常生活活動の関係を説明できる。
2. 狭義の日常生活活動項目を列記できる。
3. 日常生活活動評価の種類について例をあげて説明できる。
4. 日常生活活動評価の尺度について例をあげて説明できる。
5. 作業療法記録に記載すべき項目を複数あげて記述することができる。
6. 基礎練習、部分練習、全体練習の内容を説明できる。
7. 脳卒中片麻痺の起居動作、歩行および車椅子移動の観察視点を参考にして、対象者の動作練習を説明することができる。
8. 食事動作、整容動作、更衣動作、排泄動作、入浴動作の基礎練習と部分練習・全体練習を説明することができる。
9. 福祉用具について例を挙げて述べるができる。
10. 移動用補助具と車椅子の各部位名称と機能について説明できる
11. 日常生活活動・生活関連活動を支援するための住環境整備について説明できる。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	日常生活活動・生活関連活動の概念	日常生活活動と生活関連活動の概念・定義、観察と記録の方法	朝日まどか
2	日常生活活動各論	基本動作・移乗・移動の動作分析と支援	浅野葉子
3	日常生活活動各論	食事の工程分析と支援	朝日まどか
4	日常生活活動各論	整容・更衣の工程分析と支援	朝日まどか
5	日常生活活動各論	入浴の工程分析と支援	朝日まどか
6	日常生活活動各論	排泄の工程分析と支援	浅野葉子
7	日常生活活動の評価法	日常生活活動の評価方法（情報収集、観察、BI、FIM）	朝日まどか
8	日常生活活動の評価と支援の振り返り	これまで学修した日常生活活動の評価と支援を振り返り知識の定着をはかる	朝日まどか
9	日常生活活動の評価法	日常生活活動の評価方法（AMPS、作業バランス、OSAなど）	浅野葉子
10	日常生活活動の評価法	住宅環境の評価と支援	浅野葉子
11	日常生活活動の評価法	コミュニケーション、家事動作、外出、その他の動作分析と支援方法	浅野葉子
12	福祉用具の概念と分類	自助具やその他の福祉用具の分類と操作	菊地啓介
13	福祉用具の概念と分類	車椅子や杖・歩行器の分類と操作	菊地啓介
14	在宅障害者への日常生活活動支援と事例紹介	在宅障害者への日常生活活動支援の具体例	菊地啓介
15	まとめ	日常生活活動支援の具体例について評価計画の立案及び評価結果のまとめ	浅野葉子

【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部（研究科）、学環、学校の授業実施方針による

【評価方法】

中間テスト20%（筆記試験）、定期テスト80%（筆記試験）

【教科書】

千野直一 編 「脳卒中の機能評価 SIASとFIM [基礎編] 第1版」 金原出版 2012年
濱口豊太 編 「標準作業療法学 日常生活活動・社会生活行為学 第2版」 医学書院 2022年
柴喜崇/下田信明 編 「ADL 第2版（PT・OTビジュアルテキスト）」 羊土社 2021年
高藤宏 著 「姿勢と動作 第3版 ADL その基礎から応用」 メヂカルフレンド社 2010年

【参考書】

酒井ひとみ 編 「作業療法学全書改訂第3版 日常生活活動 協同医書出版」 2011年
伊藤利之 他 編 「新版日常生活活動（ADL）第2版 - 評価と支援の実際 - 」 医歯薬出版 2020年

【備考】

中間試験また定期試験の結果について振り返りが必要と判断された学生にはフィードバックを行う。
この授業の一部は、2025年度入学者対象の「日常生活援助学」と同時開講する。

【学修の準備】

授業内容に関連する教科書部分を事前に読み、授業に臨むこと。
配布されたプリントと教科書の内容を統合し、理解を深めること。
そのために事前学修と指導後の探索・学習に各々80分を費やすこと。

【ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）との関連】

（DP3）作業療法士として必要な科学的知識や技術を備え、心身に障害を有する人、障害の発生が予測される人、さらにはそれらの人々が営む生活に対して、地域包括ケアの視点から適切に対処できる実践的能力を身につけている。

【実務経験】

朝日まどか（作業療法士）、浅野葉子（作業療法士）、菊地啓介（作業療法士）

【実務経験を活かした教育内容】

医療機関や介護老人保健施設、訪問リハビリテーションでの実務経験を活かし、日常生活活動や生活関連活動の概念、また作業療法士による評価の仕方や支援方法が理解できるよう、具体的事例等も交えながら講義する。

【その他】

この科目は主要授業科目に設定している